進捗状況の概要　【１ページ以内】

国内の他大学やロシアの他大学では本事業を実施できないため、単独で申請を行い、事業開始後、2大学ともに、未来農業プログラムの構築が進んだ中間評価後の段階でスキームを拡大する予定であったが、国立沿海地方農業アカデミーにおける「施設園芸に関わる修士プログラムの開設準備」、サハリン総合大学における「農業に関わる学士課程プログラムの開設準備」の手続きが、ロシアにおける大学教育を統括する機構の分割、許認可の変更などにより1-2年遅れており、このため、サハリン農業機械中等専門学校、木更津工業高等専門学校との連携スキームの拡大についての相談開始が遅れている。

一方、本プログラムの宣伝広報を、各種シンポジウム、農林水産省のロシア極東等農林水産業プラットフォーム会合、などで行ってきたことから、アムール州の極東農業大学、ノボシビルスク州のノボシビルスク農業大学から、本プログラムへの参加関心が表明され、両大学と大学間交流協定、学生交流協定を締結し、両大学を海外相手大学として加えることとした。

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

2017年度				2018年度			
派　遣		受　入		派　遣		受　入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
６人	１０人	１０人	１０人	１０人	１２人	１０人	１０人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【１ページ以内】

農業ビジネスフォーラムの開催

2018年3月22日に柏の葉カンファレンスセンターにおいて、農林水産省の後援を受けて、第３回日本・ロシア極東農業ビジネスフォーラムを開催した。テーマは、施設園芸関連設備・資材、人工光型植物工場、温室ビジネス、食品加工・流通等に関わる、ロシア極東と日本での農業に関わる共同経済活動、人材育成等にかかわる情報交換、両国の大学と関連企業等とのネットワーキングを目的として開催された。このフォーラムは、国立沿海地方農業アカデミーが主催して始めたもので、世界展開力事業でめざす人材育成との連携を進めるために、千葉大学での開催を求められた。

ロシア側からは、「ウスリースク市管区の農業複合体への投資」「ロシアの施設園芸：基本的傾向」「沿海地方での施設園芸ビジネス経験から」「沿海地方での農業分野における露日の協力」「サハリンの環境技術デモンストレーションサイトでの露日協力」「ハバロフスク地方における日本企業のビジネス拡大可能性：温室野菜栽培とベリーの事例」などの発表が、日本側からは「日本の施設園芸／植物工場の注目技術」「GLOBAL GAPとクラウド型農業管理システム」他、極東ロシアに展開を実施あるいは計画している技術・取り組みの発表があった。その後、①農林水産省、②ジャパンドームハウス株式会社、③日鉄住金鋼板株式会社、④ウシオライティング株式会社、⑤株式会社キーストーンテクノロジー、⑥大日本印刷株式会社、⑦NPO植物工場研究会、によるブース展示と参加者によるネットワーキングが行われた。参加者は約110名であり、国内関連企業約40社、国内8大学、ロシア関連企業・個人農企業11名、2大学であった。

施設園芸シンポジウムの開催

2019年2月1日に、NPO植物工場研究会との共催で、施設園芸シンポジウム「日本における施設園芸技術開発の動向と極東ロシアとの連携の可能性」を柏の葉カンファレンスセンターにおいて開催した。最初に、千葉大学大学院園芸学研究科丸尾教授が、 次世代型施設園芸／植物工場の課題のうち新品種導入により対応が期待できる可能性のある分野に関して、チップバーン抵抗性レタス、単為結果性ナス、種子繁殖性イチゴ等、ゲノム編集による可能性と規制について講演があった。続いて、「極東エリアにおいて日本の技術でイチゴ栽培（太陽光型・人工光型植物工場）を行う際の技術的課題の検討」として、農林水産省 生産局 園芸作物課 施設園芸振興室の清水氏より、農業技術におけるロシア・日本の関係についての説明があり、その後、いくつかの企業から、日本のイチゴ生産、寒冷地の施設園芸の取り組みと課題の紹介があった。最後に、総合討論として、演者に加えて、ロシア沿海地方育種センター果樹・小果樹部門長、サハリン州　Alternative LLC.社長、極東農業大学科学研究部局長をパネリストとして、「施設園芸の現状と日本の農業技術に期待すること」についての討論が行われた。本シンポジウムには、国立沿海地方農業アカデミー、国立サハリン総合大学、極東農業大学関係者を含むロシアからの参加者10名に加えて、日本の企業、大学等から150名程度の参加があった。また、今後、極東でのイチゴ等栽培の普及のために、①沿海州農業部門と農林水産省による、高品質栽培、シベリア極東市場に向けた協力を先進的特区で行う、②日本のイチゴのロシアでの試験栽培と登録の実施、③バイオテクノロジー分野でのダブル・ディグリーなど日露での共同教育の検討、④沿海地方でのエコツアーの企画、などを進めていくことが提案された。